



宝永小だより

No.20

福井市宝永小学校

令和7年12月17日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

地域のお宝に出会った「ふれあい集会」 11月14日(金)

子どもたちは、「宝永地区たてわりウォークラリー」に出かけました。事前に、にこフレ班毎に、見学先や体験先を相談して決めました。そして、当日は、にこフレ班のメンバーで宝永地区を周り、クイズを解いたり、体験をしたりして、「お宝さん」（地域の史跡や人）と触れ合うことができました。特に、体験先では、下記のように、貴重な体験をさせていただきました。

校内でのにこフレ班活動は、これまでも繰り返し行っていますが、今年度のメンバーで地域へ出かけるのは今回が初めてでした。子どもたちは、この集会を通して、にこフレ班の一員としての意識を高め、協力することや各自の役割を果たすことの大切さを改めて学ぶことができました。

宝永地区には、様々な施設や店舗があり、子どもたちを大事にしてくださる地域の皆様がたくさんいらっしゃることを大変ありがたく思っています。今後も、宝永地区のよさを発見したり、地域の皆様と関わったりして、地域への愛情を深めていってけることを願っています。

各施設・店舗の皆様、付き添いをしてくださった保護者ボランティアの皆様、お忙しい中、ご協力いただき、本当にありがとうございました。



＜千福寺「お寺でジャズ」＞



＜松井先生「ピアノ演奏」＞



＜吉塚道場「空手」＞



＜図工室「もの作り」＞



＜市営体育館「弓道」＞



＜神明神社「火起こし」＞



＜国際交流会館「館内見学」＞



＜きものギャラリー本嶋「着物」＞



＜永井先生「英語活動」＞



＜公民館「フォークダンス」＞



＜郷土歴史博物館「着付け体験」＞



＜どらこんぶっくす＞

＜2年児童＞から手のわがが、たくさん知れてうれしかったです。気に入ったわがは、前げりです。なぜかという、うまくできたからです。から手をして、楽しかったです。クイズでは、作るのと、とくのが楽しかったです。またから手をしたいです。

＜3年児童＞ぼくはジャズ体けんで、だがつきを使って、上手な人と楽しくにぎやかにえんそうできて、うれしかったです。初めてで知らないアメリカの歌をみんなで楽しくえんそうできて、うれしかったです。また行きたいです。

＜5年児童＞わたしは、宝永公民館でフォークダンスをしました。1番目にダンスとじゃんけんがまざったものをしました。体でじゃんけんをして楽しかったです。会員の方々とペアになったりしておどるのが楽しかったです。班のみんなと協力して楽しく活動ができてよかったです。地域の人とふれあうことができてよかったです。

＜1年児童＞はじめての「どらこんぶっくす」は、いろいろな本があって、学校でもよんでもらった本もあって、またいきたいとおもいました。

＜4年児童＞ぼくは〇〇先生のピアノを聴いて、なめらかに弾いていて、それほど練習してきたのだと思いました。〇〇先生のピアノは、ドイツから来たのがすごいと思いました。歌をにこフレ班のみんなで歌ったりして楽しかったです。ぼくも〇〇先生みたいになめらかにピアノを弾けるようになりたいです。

＜6年児童＞今日のふれあい集会で体験場所や道路など、マナーを守ることができました。一緒についてくださった保護者の方や先生にも頼らず、みんなと協力して行動できたと思います。6年生なのでみんなのことをみていなければならないし、きんちょうしたけれど、楽しく行動できました。変身体験では郷土歴史博物館のみなさんが優しくしてくれて、初めての体験が楽しくなりました。

6年生 羽二重餅の歴史を知る ～松岡軒訪問～

11月17日(月)

6年生は総合的な

学習の時間に、『ふるさと福井の魅力を見つけ、伝えよう』の学習を進めています。今回は、『羽二重餅』発祥の老舗として、“本物の味”を守り続けている松岡軒を訪問し、『羽二重餅』の歴史に迫りました。

子どもたちは店舗奥に案内されて、松岡軒の歴史と今について説明を受けました。松岡軒は明治30年創業の福井を代表する老舗和菓子店で、福井銘菓『羽二重餅』の元祖として知られていることを伺いました。明治38年の発売開始以来、その評判は全国に知れ渡り、福井を代表する銘菓となったことも伝えられました。また、福井の絹織物『羽二重』のしなやかな風合いと白さを表現した『羽二重餅』は、もち米、砂糖、水飴のみで作られ、添加物不使用で、ふわっととろける絹のような食感が特徴であることが紹介されました。その後、羽二重餅が振る舞われ、子どもたちはふわっととろける絹のような食感を堪能し、思わず笑顔になりました。松岡軒が福井の歴史と文化を伝える『羽二重餅』の製造と販売を通じて、本物の味と心のおもてなしを提供し続けていることを体感できたのではないのでしょうか。2023年から和カフェも併設され、『羽二重餅』を使った手削りかき氷も有名で、伝統の味と新しい体験を提供していることも紹介されると、子どもたちからは「食べてみたい。」という言葉が漏れました。



＜『羽二重餅』を試食する様子＞

6年生 宝永の歴史と御素麺屋の歴史に学ぶ

11月18日(火)

昨日に引き続き、総合

的な学習の時間に、株式会社御素麺屋の前社長 ○○○○ 氏をゲストティーチャーにお招きし、宝永の歴史と御素麺屋の歴史について伺いました。

子どもたちはゲストティーチャーから、『宝永』という地名が誕生した秘話を教えていただきました。それは、江戸時代の福井藩主 松平春嶽公が御泉水別邸の庭園を『養浩館』と命名したときの元号が『宝永』だったことにちなんで、養浩館周辺の一帯を『宝永』と呼ぶようになったそうです。

その後、子どもたちは『御素麺屋』のリーフレットを受け取り、福井市に300年以上続く老舗の和菓子・洋菓子店で、元禄12年(1699年)が創業であることを伝えられると、その長い歴史に驚くばかりでした。現在は、本校のPTA会長である15代目がお店を切り盛りしており、No.1の人気商品『かりんとう饅頭』は外のカリカリ感と、中のしっとりとした餡のバランスが絶妙で、年間50万個以上売れる大ヒット商品であることも紹介されました。長年培った技術で作られた黒糖饅頭を高温で揚げたもので、「かりんとう」のような食感がたまらないそうです。賞味期限は美味しさを保つため製造日含め1日と短いことに、子どもたちは『製造と販売』へのこだわりを感じていました。また、御素麺屋では年間を通して和菓子から洋菓子まで幅広く製造・販売しており、そのお菓子はお祝いやお土産にも利用されていることから、子どもたちは地元福井で愛され続けているお菓子屋さんであることに改めて気付くことができました。



＜ゲストの話に聞き入る子どもたち＞

子どもの学ぶ姿を公開し、教員も学ぶ

11月19日(水)

今年度2回目の指導主事学校訪問

では、福井市教育委員会の指導主事に、本校の教育活動を観ていただきました。また、会津若松市教育委員会指導主事の視察や他校教員の参観もありました。本校の教員も全員が参観し、研究協議を行いました。

【提案授業】4年1組 体育(表現運動)「宇宙からイメージを広げ、思いつくままに表現しよう。」

子どもたちはこれまでに、「空想の世界へとびだそう!」という表現運動の学習に取り組み、『海底探検』と『ジャングル探検』という2つの題材で、特徴的な場面をひと流れの動きにして踊ってきました。この時間は『宇宙探検』という題材で、特徴的な場面をひと流れの動きで即興的に踊る授業でした。また、友達の動きのよいところを見つけて伝えたり、自分の動きに取り入れたりすることも目指しました。

○全員で、ダンスウォーミングアップを行う。

普段の準備運動をダンスの曲調に合わせて行ったり相手の動きをミラーリングしたりして、笑顔で楽しく踊れました。

○イメージバスケットを全体で共有し、宇宙のイメージを広げる。

宇宙にはどんなものがあるのか、宇宙はどこなところなのか、宇宙はどんな匂いや触り心地なのか、を想像しながらイメージを膨らませていきました。月、星、太陽、地球がある、暗い、空気がない、ふわふわ、静か、ざらざら、でこぼこ等が出ました。

○広げたイメージをもとに、各自でお題を決めて「宇宙探検」をひと流れの動きで即興的に踊る。

多くの子どもは空気がない、無重力空間をイメージしたのか、ふわふわした、ゆったりとした動きで踊りました。

○グループや学級全体で「宇宙探検」を見合い、友達のよい動きを見つけて伝えたり、自分の動きに取り入れたりする。

各グループで見合い、その後、よい動きをしていた子どもが、学級全体にその動きを披露しました。

○ここで「宇宙探検」の場面で、突然「ピンチ」の場面が訪れたことをひと流れの動きで即興的に踊る。そして全体で共有する。

最も上手に表現した場面が、酸素が突然途絶え、倒れ込んでものがききおどろきでした。多くの子どもが取り入れました。

○2つの場面をつなげて一連の「宇宙探検」として踊り、本時の表現運動の振り返りをワークシートにまとめる。

子どもたちは静と動の世界を上手に使い分けて、自分だけの「宇宙探検」を表現し、ワークシートに振り返りを書きました。



＜「ピンチ」の場面を表現する様子＞